



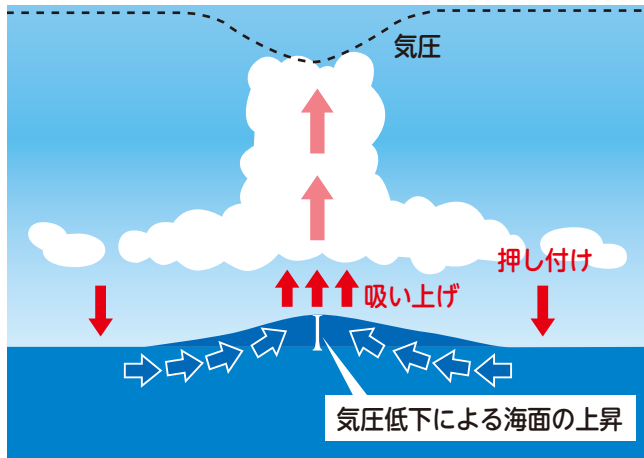
高潮

高潮の起こる仕組み

高潮の主な発生原因としては、以下の2つをあげることができます。

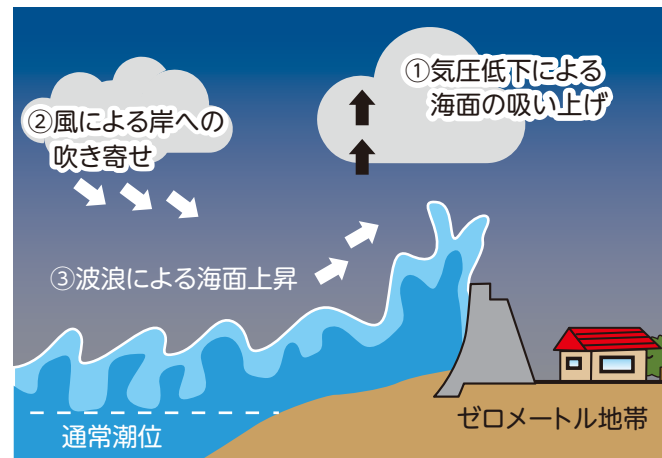
①気圧低下による海面の吸い上げ

台風や低気圧の中心気圧は周囲より低いため、周辺の大気圧は海面を押さえつけ、中心付近の空気が海面を吸い上げようと作用し、海面が上昇します。



②風による吹き寄せ

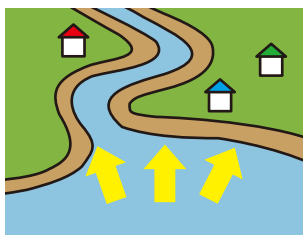
台風に伴う強い風が沖から海岸に向かって長時間吹き続けると、海面が海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が異常に上昇します。



※ 海岸近くのゼロメートル地帯は高潮による浸水の被害に注意が必要

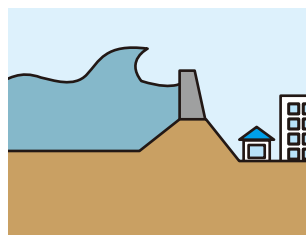
高潮の被害を受けやすい場所

■ 河口の周辺



高潮と河川氾濫などの危険が重なる。

■ 海拔ゼロメートル地帯



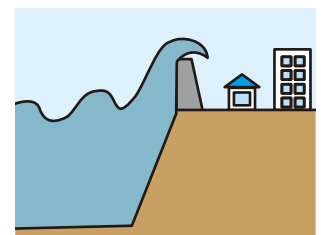
平均海面より低い土地は浸水の危険性が高い。

■ 海岸線の湾の奥



押し寄せた海水がたまり、湾内の水位が上がる。

■ 海岸近くで急に浅くなる海底地形



押し寄せた波が海岸の近くで一気に高くなる。

台風

台風の大きさは、強風域(風速 15m/s 以上の強い風が吹いているか、地形の影響などが無い場合に吹く可能性がある範囲)の半径で表し、台風の強さは最大風速で区分しています。台風に関する情報の中では、台風の大きさと強さを組み合わせて「大型で非常に強い台風」のように呼びます。

台風が発生しやすい時期は、台風の進路を事前に確認して、適切な行動をとりましょう。

■ 大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の範囲の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

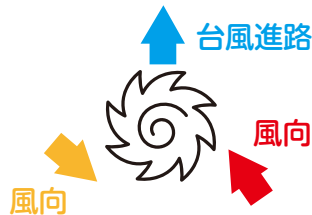
■ 強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

■ 台風情報の例



西側でも地形によっては高潮が発達する危険性がありますので、油断は禁物です。



東側では、風が特に強くなるため、高潮が異常に発達する危険性が高くなります。

避難のポイント (高潮編)

■ 気象情報に注意

台風接近の数日前から気象情報や町からの情報に注意しましょう。

■ 危険を感じたら早めに行動

夜間から明け方にかけて台風の強風域が最接近すると予想される場合は、町から早めの避難を呼びかけます。

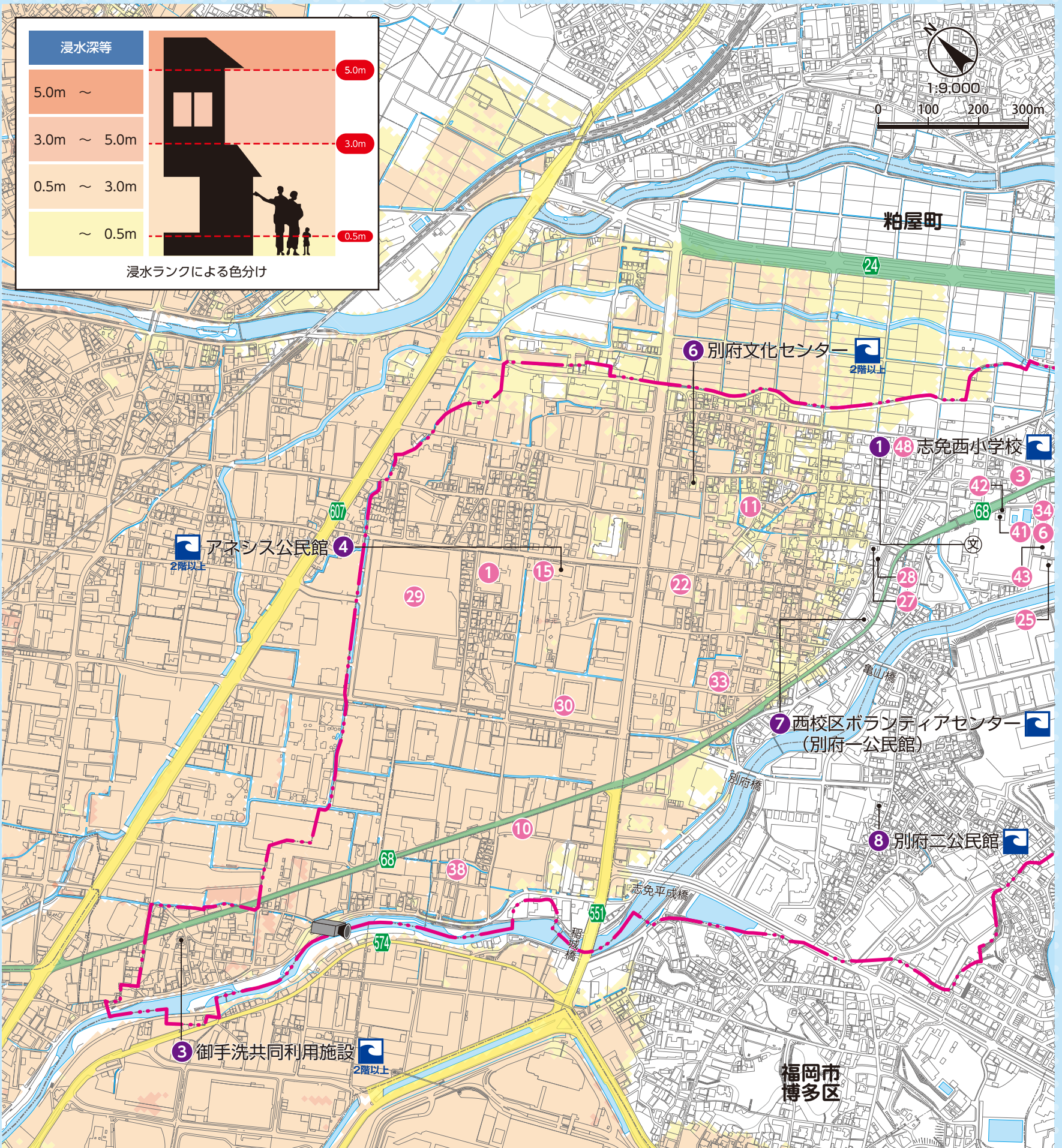
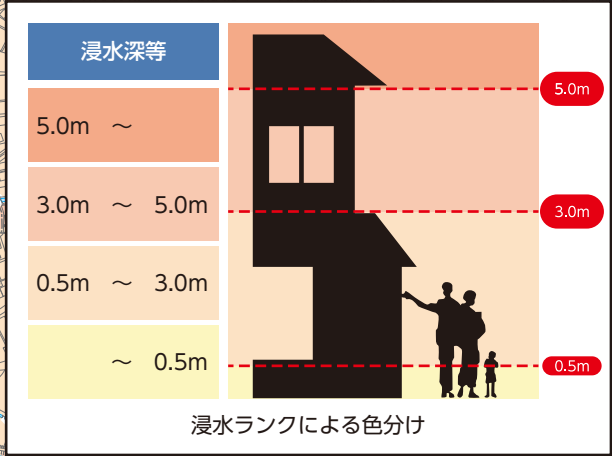
■ 海岸線に近づかない

海沿いへ様子を見に行くのはやめましょう。高波にのみ込まれるおそれがあります。

高潮ハザードマップ

凡例

- 行政界
- 3 国道
- 24 主要地方道
- 551 県道
- 学校
- 1 避難所番号
- 1 要配慮者利用施設
- 高潮時避難所
- 河川カメラ
- 高潮時避難所 (2階以上)



玄界灘高潮浸水想定区域図について

高潮浸水想定区域図は、水防法に基づき、都道府県知事が高潮浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深等を表示した図面です。
 作成に当たっては、最悪の事態を想定して、我が国における既往最大規模の台風を基本とし、各海岸での潮位偏差が最大となるような複数の経路を設定して高潮浸水シミュレーションを実施し、その結果を重ね合わせ、最大の浸水深が示されるようにしております。
 なお、最大クラスの高潮は、過去の実際に発生した台風や高潮から設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生する可能性がないというものではありません。

- 作成：福岡県（平成 30 年 6 月 5 日）
- 沿岸名：玄界灘沿岸（糸島市二丈鹿家から芦屋町山鹿まで）
- 想定台風：中心気圧 900hPa（国内最大規模の室戸台風を参考）
半径 75km、移動速度 73km/hr（国内最大の被害となった伊勢湾台風を参考）

1 要配慮者利用施設とは、社会福祉施設、学校、医療施設などの施設で、浸水想定区域内または土砂災害警戒区域内等にある施設を対象としています。



過去の災害
自助
共助・避難
情報
洪水
土砂災害
地震・火災
避難所一覧
ハザードマップ
ハザードマップ
揺れやすさ

高潮